包括職員が訪問しお話を聴くシリーズ

ここにこの人あり 地域の世話役さん登場

みんなの笑顔が自分の笑顔
田辺　佐喜子さん（主任児童委員：紫竹上本町）

おだやかな語り口、落着いた眼差し、気配りのできる方・・・が第一印象。

地域の保健委員をしていた田辺さんは、1986年に地域の役員さんに勧められ民生委員に。多くの方の相談に親身にかかわってきました。

1995年に主任児童委員が創設されると第1号に指名されました。一方、地域の少年補導委員も引き受け、子ども会のキャンプ・写生会・遊び等、交流の中であたたかく子ども達を見守ってきました。

また、「紫竹をよくする会」での活動や高齢者の取組みでは、民生児童委員・老人福祉員・社会福祉協議会共同で紫竹学区健康すこやか学級「ほっとホットふれあいサロン」の運営に携わり、みんなが力を合わせた取り組みとして定着させてきました。

田辺さんの活動は、その他に「生協くらしの助け合い」の北区での立ち上げ（1992年）に関わり、以後世話役として日々取組んできました。

暮らしの中でのちょっとした支援を必要としている方とボランティアさんを結びつけ、自立を援助する・・・・利用者に喜んでもらえ、ボランティアのやりがいも返ってくる、「苦労もあるけど充実した気持ちになれる活動」です。

奥様を亡くされた高齢の方の掃除支援を行っていた時も、活動の合間に会話をする中で、「家のことを手伝ってもらい、色々な励ましいただき、自分も家事ができるようにならなきゃあかんと思いました」と、それから頑張り、今では一人での生活を確立された例など様々な出会い触れ合いがありました。

地域の活動に参加して30年余、これだけの取組みに常に中心的に関わってくるというのは並大抵の努力ではできないことだと感心しました。

しかし、もっと感心したのは、「これは、人のためではないんです。自分のためなんです」「多くの人と接することで人生の幅が広がり、勉強になり、何より元気をもらえるんです」とのことばでした。

また、田辺さんの「心のキーワード」は“よい杖になる”（杖は前を歩かない。その人に寄り添って歩く）です。

この秋、田辺さんは四半世紀携わった民生児童委員（主任）を“卒業”されます。でも、田辺さんの“笑顔の助け合い人生”は、まだまだ続いていくのだろうと想像されます。

（田嶋記）

お年寄りに笑顔を
稲井　冨枝さん（老人福祉員：紫野大徳寺町）

稲井さんは、平成14年に就任されたキャリア8年のベテラン老人福祉員さんです。我々も時々一緒に活動させていただくことがあるのですが、いつも担当エリアの高齢者の小さな悩みまで把握されており本当に驚かされます。

そんな活動を続けていると、中には驚くような事例に出会ったり、またいろいろ考えさせられることが多々あったそうです。そこで今回は、その中でも最も印象に残ったエピソードを聞かせていただきました。また、それらを通じて教えられた教訓や若い人たちへのメッセージも併せて聞かせていただきましたのでご紹介いたします。

85歳のひとり暮らしの女性の家を訪問されたときの話です。見た目にはしっかした方でしたが、何度か訪問し少し打ち解けてくると妙なことを訴えるようになったそうです。「天井裏に人が寝てる」「捕まえてほしい」と！？。自宅やご本人の状況からして、非現実的であり病的な訴えであることは明らかだったそうです。しかしご本人の言われた言葉がこころから離れず、その後も定期的に訪問活動を続けてご本人の訴えに耳を傾けておられるそうです。

「私の気持ちが分かるか、天井裏の人を捕まえようとしても逃げられてばかりやし、毎日夜も寝られへんわ・・・」（この事例は、専門機関と一緒に解決策を模索しているようですが、現在も解決せず同じような状況が続いているそうです。）

このような事例をはじめ8年間の老人福祉員活動を通じて、「高齢になってひとりで生活する苦労」や「話し相手がいないことのさみしさ」を痛感したとのことでした。そんなことを考えながら訪問活動を行うので、いつもついつい長話になってしまうとこのことでした。

最後に、本誌の対象読者に「これから介護に関わると想定される家族（世代）」であることをお伝えしたところ、ぜひ訴えたいことがあるとのことでしたので以下に掲載します。

「ご近所つきあいが希薄になっている今日、ひとり暮らしの高齢者は本当に孤独な方が多いです。機会がある方はぜひお年寄りと接してあげてください。」

現場の第一線での現実を知っている方の発言だけに、本当に重みのある言葉だと思います。私も稲井さんの言葉を胸に置きながら、今後の相談活動を行いたいと思います。私自身この取材を通じて、稲井さんの老人福祉員に取り組む姿勢から「援助に対するこころ構えとは何か」を教えられたような気がします。　（下田記）

社会福祉法人　京都ライトハウス
京都市北部障害者地域生活支援センター

ほくほく

障害者地域生活支援センターでは

京都市障害者地域生活支援センター（相談支援事業）は京都市が開設した「地域生活支援事業」のひとつです。地域で暮らす障害のある方やその家族、介護されている方などからの地域生活や福祉に関する様々な相談に応じ、福祉サービスの利用援助を行なう機関です。

京都市障害者地域生活支援センターは、京都市内を北部・中部・東部・西部・南部に分け、それぞれに3ヶ所ずつ、計15ヶ所配置されています。「ほくほく」は京都市北部（北区・左京区）にお住まいの身体・知的・精神障害のある方の相談場所です。

「ほくほく」では、地域で暮らす障害のある方と「自分らしい生活」が実現できるように一緒に考えて行動します。「こんなこと相談していいの？」「どこに相談していいか分からない。」という内容もご遠慮なく相談して下さい。相談は無料です。

たとえば・・・・・

- どのような福祉サービスが使えるのかなど、福祉サービスの紹介や利用手続きについての説明・援助
- 福祉事務所、保健センター、福祉施設などへの連絡や調整
- 働くことを希望する人への相談、援助
- 専門機関の紹介
- サービス利用計画書の作成
- ピアカウンセリング

などのサービス提供を行なっています。
まず、お電話いただければと思います。

■■「介護保険サービスを利用されている方や、介護保険サービス提供に関わる方が、障害者地域生活支援センターをどのように活用してもらえるのか？」■■

たとえば・・・・・

・介護保険サービスを利用しておられる障害のある方
→介護保険制度だけでは、生活を支えていくだけのサービス提供ができないような場合、障害の程度によって、介護保険にはない制度を障害施策から利用できることがあります。

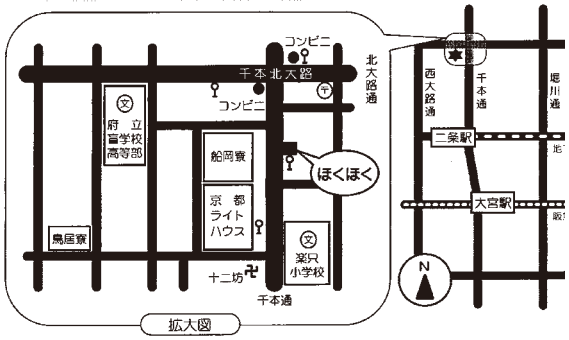
・介護保険サービスを利用しておられる方のご家族に、障害のある方がおられる
→二つの制度間での居宅内サービスの調整や、家族間トラブルの調整が必要な場合があります。

・障害のある方でもうすぐ65歳を迎えられる方
→介護保険への移行時期です。利用する制度が変わっても、その人らしい生活が送れるよう、関係機関での情報伝達・連携の必要性があります。

など、介護保険制度と障害施策での協働が必要なケースがたくさんあると思います。どうぞご遠慮なく障害者地域生活支援センターにご相談、ご連絡下さい。

社会福祉法人　京都ライトハウス
京都市北部障害者地域生活支援センター　ほくほく
相談時間：月曜日～金曜日　午前11時～午後7時まで
（土・日・祝日・12月29日～1月3日をのぞく）
＊電話番号：075-451-4555
＊FAX：075-451-4488
＊メールアドレス：hokuhoku@ymail.plala.or.jp
＊住所：〒603-8226　京都市北区紫野西舟岡町13-1

千本北大路南ゆきバス停前



大宮地域「防災と福祉のまちづくり」の取り組み

いざ、という緊急事態に備えて、地域社会の対応力・管理能力を強化するため、安心・安全のために行動する地域社会の「ネットワーク」の策定が要請されるようになってまいりました。

実際、数年前、この地域において行方不明になられた方が、多くの関係者が捜索に奔走されたけれども、残念ながら凍死体で発見されるという事件がありました。

折しも、関係当事者から、独居高齢者層の実態調査の至難性から、地域社会全体の責務としての取組の要望があり、大宮社会福祉協議会では、これを契機とし、翌年の国勢調査を踏まえて、町内会から選出されている自主防災委員の体制を中心に、大宮学区全体の各種団体の連携による「ネットワーク」づくりの具体化に取組むこととなりました。

北区役所のまちづくり推進課と協議を進める過程で、仏教大学の福祉教育開発センターの後藤至功講師の協力を得ることになり、「防災と福祉のまちづくり」講座を計6回、2年有余にわたり、継続して開講、学区全体の運動とLて取組んでいるところであります。

具体的には、大宮地域の42町内会各自主防災会で設定された8ブロックに区分けして、それぞれのブロックの構成員が、所管の地域の実情を確かめ合いながら、緊急時の支援対象や要協力資材・人材などの確認マップ描き上げようという試みであります。

作られた、与えられた「地図」ではなく、みんなで作り上げる「地図」であります。

そうして作り出された8ブロックの「地図」を合体して、大宮地域の「防災と福祉のまちづくり」マップを完成するとともに、願わくば、あくまでも任意団体ではありますが、地切の住民組織としての基礎単位である「町内会」組織が、いずれも、このマップづくりの運動が、「町内会」をして、自主制・自立制・主体性ある組織、自分たちの町は、自分たちでつくる、住民自治の「まちづくり」に、きっと有効な影響をもたらしてくれるものと念願しているところであります。

「防災と福祉のまち」を目指して、みんなで力をあわせましょう。

大宮社会福祉協議会　会長　西田　輝雄

◇◇ スタッフの「座右の銘」紹介 ◇◇

小畑 智子
センター長
保健師
寝たいときに寝る、食べたいときに食べる。

下田 徹矢
社会福祉士
旅することを忘れないこと（スーザン・ソンタグ）

田嶋 敏幸
社会福祉士
笑う門には福来る（1日1回はダジャレを言おう）

今井　昭二
主任ケアマネジャー
無二一球

村上 あした
社会福祉士
夜がどんなに暗くても、「明日」は「明るい「日」と書きます。

加藤 礼子
事務
食べたい時は食べる

第2回「認知症ケア等活動交流集会」を開催します。

11月11日　午後6時30分
同志社大学臨光館204号室にて

１つの事例から「医療と介護の連携」を大きなテーマとして報告、以後グループ討論を行います。多くの方々の参加をお待ちしています。是非ご参加ください。（担当　今井）

京都市紫竹地域包括支援センター

〒603-8473 京都市北区大宮南山ノ前町36-1
TEL 495-6638　　FAX 495-6660
URL: http://kita-hp.aoikai.net/sien.php
E-mail: shitiku@mbe.nifty.com

当センター担当地域
紫竹学区
大宮学区
待鳳学区